

いわき市川前町高部地区の被災状況と住民の生活

高木 亨（（財）地域開発研究所・客員研究員）

田村健太郎（立正大・学生）

浜田大介（立正大・学生）

清水康志（立正大・学生）

1. はじめに

立正大学の学生とともに地域活性化の取組をしている福島県いわき市川前町高部地区に、震災発生約1ヶ月後の4月10日に訪れた。その際の観察と聞き取りで得られた当地区の東日本大震災の被災と復旧の状況を報告する。なお今回の訪問は、地区の現状把握と今年度の活性化活動についての打合せが目的であった。



いわき市川前町高部地区はいわき市中心部から北西の方向で、車で約1時間の距離にある。また、福島第1原発の屋内待避30km圏の数km外に位置している（図1）。当地区に地震計はないが、3月11日の本震では、近接するいわき市三和と小野町小野新町で震度6弱を記録している（表1）。当地区とは2009年から、学生を中心とする地区の地域活性化に取り組んでおり、今年度で3年目となる。

図1 高部地区の位置と福島第1原発からの距離

資料：マピオン <http://www.mapion.co.jp/f/mapion/topics/fukushima03.gif> より一部改変

表1 福島県各地の震度

| | |
|----|--|
| 9 | 白河市新白河*、須賀川市岩瀨支所*、須賀川市八幡町*、二本松市針道*、鏡石町不時沼*、楢葉町北田*、富岡町本岡*、大熊町下野上*、双葉町新山*、浪江町幾世橋、新地町谷地小屋* |
| 6弱 | 郡山市朝日、郡山市開成*、郡山市湖南町*、白河市表郷*、須賀川市八幡山*、須賀川市長沼支所*、二本松市金色*、二本松市油井*、桑折町東大隅*、川俣町五百田*、西郷村熊倉*、中島村清津*、矢吹町一本木*、棚倉町榎倉中居野、玉川村小高*、浅川町浅川*、小野町中通*、小野町小野新町*、田村市大越町*、田村市常葉町*、田村市都路町*、田村市滝根町*、福島伊達市前川原*、いわき市小名浜、 いわき市三和町 、いわき市錦町*、いわき市平柳本*、相馬市中村*、福島広野町下北迫大谷地原*、川内村上川内小山平*、川内村上川内早渡*、飯館村伊丹沢*、南相馬市鹿島区*、南相馬市小高区*、猪苗代町千代田* |
| 5強 | 福島市松木町、福島市桜木町*、白河市郭内、白河市八幡小路*、白河市東*、白河市大信*、大玉村曲藤、大玉村玉井*、泉崎村泉崎*、矢祭町東館下上野内*、矢祭町東館本*、石川町下泉*、平田村永田*、古殿町松川*、三春町大町*、田村市船引町、福島伊達市保原町*、福島伊達市雲山町*、福島伊達市月館町*、二本宮市本宮*、いわき市平四ツ波*、福島広野町下北迫苗代替*、川内村下川内、葛尾村落合落合*、南相馬市原町区三島町、南相馬市原町区本町*、会津若松市東栄町*、喜多方市塩川町*、磐梯町磐梯*、猪苗代町城南、会津坂下町市中三番甲*、湯川村茨川*、会津美里町新鶴庁舎* |
| 5 | 福島市飯野町*、二本松市小浜*、棚倉町榎倉ヶ丘*、塙町塙*、鮫川村赤坂中野*、会津若松市材木町、会津若松市北会津町*、会津若松市河東町*、喜多方市御清水*、喜多方市高郷町*、下郷町塩生*、西会津町野沢、西会津町登島*、柳津町柳津*、会津美里町高田庁舎*、会津美里町本郷庁舎*、南会津町田島 |
| 4 | 喜多方市松山町*、喜多方市熱塩加納町*、喜多方市山都町*、下郷町高崎*、檜枝岐村上河原*、只見町只見*、北塩原村北山*、福島昭和村下中津川*、南会津町界*、南会津町滝原*、南会津町古町*、南会津町山口* |
| 3 | 檜枝岐村下ノ原*、柳津町大成沢、三島町宮下*、福島金山町川口*、南会津町松戸原* |

資料：気象庁ホームページ <http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/index.html> より一部抜粋

2011年3月11日0時～12日0時、震度6弱以上で検索

2. 被災状況

高部地区には2011年2月現在で18世帯44人が居住している。このうち少なくとも4軒で屋根瓦が落ちるなどの被害が発生した（写真1）。そのうちの1軒では、浴室のある離れの建物が傾き、屋外灯油タンクが横転するなどの被害が発生していた（写真2・3）。他には、土蔵の壁が一部崩れる（写真4）、集会所にある二宮金次郎の石像が崩れる（写真5）などの被害があった。また、



写真1 屋根瓦が落ちた建物（撮影：田村）



写真2 傾いた離れの浴室（撮影：高木）



写真3 倒れた屋外灯油タンク（撮影：田村）
復旧済み、周囲のコンクリートにひび割れが目立つ



写真5 崩れた二宮金次郎像（撮影：高木）



写真4 外壁が一部落ちた土蔵（左、撮影：高木）

家の中では食器棚が倒れるなどの被害が発生した。被災後1ヶ月を経過しているため、一部を除き復旧している。現在は、日常生活に支障ない状況にある。

自宅で被災した女性は、グラグラと大きな揺れが続いたため、柱にしがみついて揺れが収まるのを待ったとのことである。また、区長を含む6～7名は、老人会の行事でいわき市の海岸部にある施設に滞在していた。大きな揺れのあと、すぐにバスで避難したため難を逃れた。遅かったら津波に巻き込まれていたかもしれないと、語っていた。

当地区は、福島第1原子力発電所から直線で30数kmの距離にあり（図1）、原発事故による放射能の影響が懸念された。このため4世帯が、事故発生直後に中通りや関東地方に避難をしてい

た。しかし、放射能の影響も比較的少なかったことから、避難していた世帯も地区へ戻ってきている。隣接する小野町が10日に測定した放射線量は0.15 μ Sv/hであった¹。

3. 被災後の地区の対応

被災直後から集会所に住民が集まり、炊き出しをおこなうなどの相互扶助がおこなわれていた。また、福島第1原子力発電所事故の関係で、隣町の田村警察署小野町分庁舎から応援の警察官（当初福岡県警、その後愛知県警）が2週間にわたり日中10名程度が派遣されていた。彼らは集会所を拠点に、地区の警備や住民への放射線レベルの測定などをおこなっていた。

この間、警察官と住民との交流の輪が広がった。我々の質問に、住民たちは警察官の活動に対して感謝の意を述べるとともに、彼らがいることで得られた心強さが伝わってきた。また、話の中からは、警察官たちも住民の「もてなし」に感激していた様子がうかがえた。警察官たちが地区を離れる際に住民と撮った記念写真を見せてもらうことができた。こうしたことから、被災後に住民が落ち着きを取り戻していく上で、警察官の常駐は大きな役割を果たしたといえる。

4. 復旧状況

ライフライン関係では、電気が震災直後から停電した。水道は井戸水をポンプでくみ上げているため、停電中は使用できなかった。その一方で、ガスはプロパンガスのため、被災直後でも使用可能であった。被災直後はくみ置きの水をガスで湧かし、湯たんぽにして暖をとっていた。電気は3日後に復旧をしたことから、水道も同時に使用可能となった。

道路状況は、小野町方面へは大きな問題も無く通行することができた。しかし、いわき市中心部と川前町を結ぶ、県道小野四倉線は、地震直後から崖崩れのため通行止めとなっていた（10日現在小型車通行可能であった）。また、川前町を通るJR磐越東線も不通となっていた（4月15日に全線復旧）。

生活物資は比較的早期に回復した。集会所には支援物資が届いており、その量も十分なものであった（写真6）。3月末までには小野町にあるスーパーも再開しており、日常生活に困らない程度の物資は入ってきている。また、農家が多いため米などの食糧の備蓄が多かったことも幸いしている。



写真6 集会所に届いた支援物資（撮影：田村）



写真7 集会所での打合せの様子（撮影：田村）

¹小野町ホームページ（<http://www.town.ono.fukushima.jp/>）より

5. 復興に向けて

当地区は地震の影響、原発事故による放射能の影響も比較的少なかった「恵まれた」地区であるといえる。原発事故の推移を見なければわからない点も多いが、学生と地区住民とによる地域活性化の取組を進めていくことになった。稲作体験を中心に、原発事故の風評被害の克服を目指した取組をおこなうことが決定された（写真7）。当初、福島県からの補助金を利用した取組も計画していた。しかし、補助金の取扱が今後どのようなようになるかが不明のため、その部分の計画は延期とした。

原発事故の影響で震災後1ヶ月を経ても、先が見えない状況が続いている。こうした状況下でも、前向きな取組を計画することで、住民・学生ともに難しい課題を乗り越えていく目標が定まったといえる。これまでの地域活性化の取組でできた「絆」を活かして、今後も地区の復興に役立つよう取り組んでいきたい。